

令和元年度北陸技術士懇談会

第2回技術講演会報告

令和元年2月8日（土）、北陸技術士懇談会第2回技術講演会が、金沢勤労者プラザにて会員約50名の聴講の下に行われた。

■橋本会長のご挨拶

設立51年目の令和2年の講演会は、これまでの女性青年委員会の女性部会の活動を踏まえ、北陸3県の女性技術士の方に女性の視点で講演して頂く予定であります。

今後も、北陸技術士懇談会として、今回のような新しい企画に取り組んでいきたいと考えていますので、是非今日の講演会が第一歩のスタートになれば良いと思います。

■講演内容

講演1：「自然の中で仕事をすること」

茅田 照代 講師

(株)北陸環境科学研究所

環境科学部環境科学グループ 主任研究員

福井県在住。技術士／環境・建設・農業部門。

<講演概要>

① 自然環境調査について

自然環境調査が行われる目的は様々であるが、調査の目的に応じて、どの生物群について、どのように調査を行うかを検討することが重要である。

自然環境調査には、同じ場所を数年おきに実施する基礎調査や特定の種の保護を目的とした調査もあるが、多くは様々な事業に伴い行われている。また、これまでの遂行業務例として、具体的な調査内容を挙げて御紹介を頂いた。

② 現地調査での苦労やよかった点

現地調査で苦労した点は、体力と神経を使うため、大変多い。よかった点としては、サケの産卵やミズクラゲの大群等の普段見ることが出来ない珍しい生き物や風景に出会えることができる点が挙げられる。

③ 女性が働きやすい会社の取り組みについて

在籍している(株)北陸環境科学研究所における取り組み例として、育児休暇・介護休暇の設置、時短勤務および時間外勤務の制限、時間有給の設置、複数の担当者の設置等について、具体的な事例を挙げて紹介された。



【茅田講師のご講演】

これまで遂行して来られた業務について、一つ一つ丁寧に説明している姿が印象的であった。女性技術者の現場作業ということで、大変な苦労があったと思うが、自然環境調査を通じて貴重な生物を保護していく思い、使命のようなものが現在のエネルギーになっているものと思われた。我々技術者も見習うべき点が多く、素晴らしい方だと思った。

講演2：「継続は力なり」

高島 智佳子 講師

(東京コンサルタンツ(株) 金沢支店 次長)

石川県在住。技術士／建設部門。

<講演概要>

① 自己紹介（女性技術者としての生い立ち）

学生時代は、入学～卒業までの9年間で、土木工学科の女性は自分ひとりであった。また、就職活動においても、殆どの会社に女性ということを経験し、理由に断られたが、何とか地元建設コンサルタントに入社することが出来た。その後、現在の会社に転職を図り、国土交通省への出向を経て、技術士を取得し、立場も変化したことで、「主導権を握る」ことの重要性和握る方法を覚え、現在に至っている。

② 現在の女性を取り巻く環境

近年は、建設業界で女子学生の募集が増え、労働環境の改善が考えられるようになったが、「女性が輝く社会」の取り組みに対して、84%の女性がイラっとすると回答している。その理由としては、仕事では平等を求められるのに、家庭での育児、家事労働の殆どを女性が担っており、労働環境の大きな改善が求められない限り、育児期の仕事と家庭の両立は難しい。

女性はマルチタスクであり、複数の作業を同時にこなすことができ、真剣に子供に向き合った女性だからこそ、我慢強く人材育成が可能となる。

③ 私たちがすべきこと

人はそれぞれ能力が違い、人には得意・不得意がある。全員が同じ仕事ができるようになるように、適材・適所を考えてあげることが大事である。

10年後には、「女性の活用」「男女共同参画」などという言葉を使わなくても、当たり前の中になって欲しい。



【高島講師のご講演】

聴講者が引かれる話術を駆使して、これまでの御自身の女性技術者としての歩みと、今後の社会に望む“あるべき姿”についての思いを熱く語って頂いた。今後、日本社会が発展していく上で、今回話していただいたことは、とても大切なことであり、私自身も若手の人材育成を図っていくためのヒントを得たような気がした。

講演3：「ひととのつながり」

石井 仁美 講師

(株)アーキジオ 調査設計部 課長)

富山県在住。技術士／建設部門。

<講演概要>

① 地盤調査の業務

地盤調査とは、建設現場の土質構造、土の物理・科学・力学特性等を詳細に調査するものであり、現場仕事が多い。

地盤調査業務の流れは、発注者との打ち合わせ・協議、測量、埋設物確認、試掘調査、地権者・関係機関との協議、ボーリング調査、その他業務の目的によって、様々な調査を行う。

② 女性技術者の課題

現場仕事が多いため、危険動物がいる中での作業やトイレ等の問題がある。更には、業界内は男社会であり、周りが男性しかいない中での労働環境、育児の問題、家事との両立が困難である。

私が所属している部は計7人中3人が女性であるが、官公庁や他社でも女性技術者が増えては来ているものの、結婚や出産等で退職される方が多いのも現実である。

私が現在も仕事が続いている理由は、様々な現場を経験したことで、技術士を取得することができ、尊敬できる上司や仕事で絶対的な信頼を寄せられる人がいたことが大きい。今後、現場作業が多い女性技術者を働きやすくするためには、仮設トイレの設置や仕事の悩みを一人で抱え込まないような環境を整えることが大事である。



【石井講師のご講演】

御夫婦ともに県外出身者であったことから御両親にお子さんを預けることが出来ず、育児の面で大変苦労されたことが良く分かった。そんな中で、尊敬できる上司がそばにいて、力強く支えてくれたことが、言葉の端々から伝わった。最後に、その尊敬していた上司への哀悼の意を聴講者に伝えられ、感動的な講演となった。

講演4. パネルディスカッション

コーディネーターの平澤氏(楸国土開発センター)から、本日のテーマである「働きやすさ改革に向けて」について、3人のパネリストの方々に対して、女性技術者の視点からご意見を頂いた。



パネルディスカッションの様子

■交流会

今度副会長の音頭で乾杯の後、各講師を囲んで和やかな懇親に入った。今後の女性技術者の活躍を期待しながら、お互いの近況を語り合い和気あいあいのうちに終了の時間となり、大石副会長の音頭で中締め後、散会となった。

文責：大江正道(富山)